

26PA-pm114

漢方における薬用酒の意義

○五十鈴川 和人¹, 中平 結花¹, 伊藤 陽一¹, 金 成俊¹ (¹横浜薬大)

【目的】薬草を酒に浸したものを薬用酒と呼び、一般に健康維持の目的で用いられている。このような薬草は漢方薬の構成生薬にも含まれていることから、漢方における薬用酒の意義について検討した。

【方法】『薬酒果実酒全科』に記載されている薬用酒に用いられている薬草の中で、医療用漢方製剤などの構成生薬として用いられている薬草及びその効果を調査した。また漢方の薬物書である『本草綱目』に記載されている薬用酒を調査し、効果を分類した。さらに、両者に含まれる生薬及びその薬効などを比較した。

【結果及び考察】薬用酒として医療用漢方製剤などに用いられている生薬は約30種あり、健胃整腸、鎮痛、鎮咳去痰、抗炎症、強壮などの作用を有するものであった。『本草綱目』には、酒として大きく「米酒」、「焼酎」、「葡萄酒」に分類されており、「米酒」には薬用酒として、約70種記載されており、茴香、菊花、枸杞子、生姜、蒼朮、当帰、人参、茯苓などは現在でも薬用酒に用いられているものであった。薬効としては関節疾患の改善、強壮、皮膚の抗炎症、健胃作用などであった。『本草綱目』に記されている薬用酒の効果は、現在用いられている薬用酒の効果と類似するものも見られた。このような結果から、漢方においても薬用酒は重要な薬であり、疾病の改善や予防に有用であることが示唆された。